

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2573番地1		
自己評価作成日	平成22年10月11日	評価結果市町村受理日	平成22年10月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者とともに作品を作ったり、花や野菜などを育てている。野菜などは、収穫したものを利用者全員で食べている。また、利用者が中心となって歌をうたうなどのレクリエーションにも力を入れており、楽しく暮らしてもらえるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3610510087&SCD=320>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年12月3日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所周辺は畑や民家があり、畑の一角で利用者とともに花や野菜を育てて家庭的な生活の継続に努めている。季節の野菜を収穫して料理の1品に加えたり干し柿をつくって食卓をにぎわしている。利用者の中には縫い物や絵を描くことが得意な方がおり、作品を展覧会に出品するよう計画するなど、一人ひとりの関心度や力をうまく引き出している。人材育成への貢献をして、高校生や専門学校生の研修を積極的に受け入れ、地域に根ざした取り組みを行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			理念	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が地域の一員となっていけるように努めている。職員は、理念に基づいた行動ができているかを日々確認している。	事業所が地域の一員となれるよう努めている。管理者と職員は、理念にそったケアが実践できているか振り返り、確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と立ち話や挨拶を交わしている。また、近所の理容室や買い物に行くことで、顔なじみの関係を深められるように努めている。	地域の方と食事会を開催したり他の事業所との交流会を持っている。また、地元高校生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れ、交流している。日ごろから近く的美容院や買い物等に出かけ、顔なじみの関係を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れ、グループホームに入居している方々の暮らしについて知ってもらうようにしているが、地域の人々への還元まではできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族や地域住民、行政、他事業所の方に参加してもらっている。事業所の取り組みを報告し意見をもらっている。会議内容は全職員に周知している。	運営推進会議には、家族や地域役員、行政、他の事業所の職員等の参加がある。事業所の取り組みや報告等、双方向的に話し合い、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。会議内容は、全職員に周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や職員が市担当窓口を訪問し、事業所の実情や取り組みを伝えて指導してもらっている。	日ごろから、管理者や職員は、市担当者とは連絡を取りあっている。また、市担当窓口を訪問して事業所の実状や取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として、施錠しない・身体拘束をしないこととしている。利用者の身体に危険が及ぶような緊急時など、やむをえない場合には、家族や管理者、職員で話し合い方針を決定している。	全職員がマニュアルや研修で理解を深めている。利用者の身体等に危険が予測される場合には、家族等と話し合い、事業所の工夫や取り組み方針について納得を得たうえで、抑圧感の無い暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員に高齢者虐待防止関連法について説明を行っている。また、勉強会を開催し、虐待について学び、職員が自覚せず行っている虐待やそれにつながる不適切ケアがないかについて確認し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、社会福祉協議会主催の研修会に参加し学習している。これらの制度について、利用者や家族への十分な説明はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前見学や契約時に、重要事項説明書や事業所の取り組みなどを説明し同意を得ている。不明なことがあれば、そのつど十分な説明を行い、後日でも質問に応じる旨を伝えている。解約時にも同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに意見や要望を聞いている。利用者の日常生活から要望等を把握し、サービスの質の向上に努めている。また、意見箱も設置している。	日ごろの生活の中で利用者の要望を把握している。家族や親戚等の来訪時、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。出された意見や要望は、職員会議で検討し、サービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や要望をミーティングや日々のコミュニケーションから聞きとるよう努めている。	代表者や管理者は、日ごろの職員とのコミュニケーションの中で意見や提案などを聞いている。また、ミーティング時などに話し合う機会を設け、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の勤務状況を把握しており、職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会に積極的に参加している。また、外部研修にも交代で参加しており、職員間で共有できるように報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や勉強会、相互訪問などの活動はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、見学にきてもらったり、体験入居をしてもらい、本人の不安が軽減されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居についての家族の不安や思いをよく聞き、時間をかけて話し合って要望等を汲み取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、「今」必要としていることを把握し、職員に周知して適切な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として、また、自分の祖父母や両親のような存在として、ともに過ごし、支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が「一緒になって利用者を支援していく」という気持ちを共有できるよう良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの思い出や人間関係を断ち切らないように、家族との思い出の写真をいつでも見られるようにしたり、友人や知人の面会や馴染みの店への外出を支援している。	友人や知人の来訪、週末に外泊をして家族と過ごしたり馴染みの店に出かけて話を楽しんでいる。行きつけの理・美容院で一日を過ごす利用者もあり、一人ひとりにそった支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握・理解し、助け合いながらともに楽しく暮らせるような気配りを心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、電話をしたり声をかけたりしており、相談があれば応じている。事業所に野菜を持ってきてくれる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりの中で、本人の言動から希望や意向を汲み取るように努めている。また、意思の表出が困難な方には、表情の変化等から思いを把握できるように努めている。	日ごろのかかわりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。意思表示の困難な方には、表情の変化等から思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、本人や家族、他部門(他事業所)等から生活歴や生活環境についての情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムが一人ひとり異なることを理解したうえで、個々の現状を総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、カンファレンスを行っている。利用者や家族の意見が反映された介護計画を作成するよう留意している。	利用者や家族、関係者等から意見や要望を聞き、全職員でアセスメントを行って介護計画を作成している。家族の要望や状況変化等に応じて随時、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や受診記録、カンファレンス記録に記載した内容や、関連部門から提供された情報を共有して話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の支援に支障がない範囲で、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や警察等、公共機関へ働きかけを行っている。また、地域の店舗を利用することで、入居者を知ってもらい、安心した生活ができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。必要に応じて受診に付きそったり家族に同行して日ごろの様子や変化を伝え、記録を残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する協力医療機関に、利用者の身体状態や暮らしぶりを把握している看護師がおり、常時、相談できる関係になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから医師や看護師に相談している。利用者の情報を共有し、速やかな入退院の支援ができる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の希望に応じて、ターミナルケアや訪問看護が導入できる体制をとっている。(事前にご本人・ご家族に医師から説明し、理解された場合)	利用者や家族の希望に応じて、早い段階から医師や看護師、ケア関係者と話し合い対応方針を共有し、ターミナルケアや訪問看護を導入できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会やAED講習会、消防署主催の救急対応の勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員には、消火器の使用法や災害時の連絡方法等を徹底して伝えている。利用者を変えた避難訓練を実施しており近隣住民にも協力を依頼している。	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。全職員で、消火器の設置場所や使用方法を確認している。また、運営推進会議で地域の方に非常災害時における協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に、利用者のプライバシーについて確認し合い、誇りやプライバシーを損なわないように配慮している。	プライバシー確保や尊厳について、ミーティング時等、機会あるごとに話し合っている。トイレやお風呂場のドア開閉時の確認等について話し合われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから、本人が自己決定できる機会を少しでも増やすように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、利用者それぞれのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方には、本人に服装などを選んでもらっている。職員は整容も含めてさりげなく支援するようにしている。散髪やパーマもなじみの理・美容院を利用し、お気に入りのスタイルにできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の筋とりや皮むき、食器洗い、机拭きやおしぼり配り等、その人にできることをしていただいている。	野菜のすじ取りや皮むき、テーブル拭き、お絞り配り等、利用者一人ひとりの力や関心度を活かしながら職員とともに食事の準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、摂取量の確認をしている。お茶を飲まない方には好きな飲料を提供し、食事量が少ないときは補助食品や好物を提供する等の工夫をしている。夏季は脱水に注意し、スポーツドリンク等を積極的に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを個別に行っている。利用者一人ひとりの状態に応じ、声かけや見守り、介助等を行い、口腔内の状態をチェックしている。夜間は、義歯を容器に入れて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全利用者にトイレ誘導を行っている。排泄を失敗しやすい方には、時間を見て誘導をしたりサインを見逃さないように対応している。	チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや見守りを行って、サインを見逃さないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況のチェックをしている。水分や野菜、乳製品等を積極的に摂取できるように努め、自然な排便に向けた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により、毎日の入浴もできる。朝風呂や足浴等の希望にも柔軟に対応しているが、夜間入浴には対応できていない。	希望により毎日入浴できるよう支援している。朝風呂や足浴等にも、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠薬の使用は最低限としている。日中の活動を増やし、適切な休息がとれるようにしている。また、布団干しやシーツをこまめに交換して気分よく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個人カルテにファイルして、特に注意が必要な薬は、カラーマジックで色づけして確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬり絵や貼り絵、折り紙、切り紙、アンデルセン工芸など、利用者同士が協力して作品を作っている。また、利用者一人ひとりが、自分にできる役割を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者や家族の要望を聞き、外出支援を行っている。	利用者や家族の要望を聞き、外出を支援している。天気のよい日には、散歩道を遠回りしたり、近くのお店まで車椅子の方と一緒に買い物に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			凜 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かっているが、少額の金銭を保持している方も数名いる。買い物の際には自身で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望により電話をかけることができる。電話の操作が困難な方には、職員が代わって電話をかけて受話器を手渡し、話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の音や明るさ、温度、湿度に配慮しながら調節している。壁に季節に応じた作品を飾り、食事には季節を感じられる旬の食材をとりいれている。	事業所内の音や明るさ、温度、湿度等に配慮している。居間の窓際には、利用者が作った干し柿が吊るされている。生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに過ごせるような場所を提供している。(ソファーや畳の間・ベンチなど)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく暮らせるように、なじみの家具などを持ち込んでもらっている。	居室には、家族と撮った写真が飾られている。植物を育てたり使い慣れた筆筒や椅子等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置等にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「わかる力」「できる力」を活かして、入居者同士で助け合いながら生活できるよう支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者全員が安心して生活できるよう、職員間で話し合い、理念に沿ったケアができるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し交流を図っている。自治会活動への十分な協力はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の方々の参加による食事会や運営推進会議を開催している。その際の会話などを通して、認知症への支援に関する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族や地域住民、行政、他事業所の方に参加してもらっている。会議内容は他職員にも周知し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や職員が市担当窓口を訪問し、事業所の実情や取り組みを伝え交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解している。見守りを徹底することで、日中は施錠せず自由に出入りできるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法についての勉強会を通して理解を深め、虐待やそれにつながる不適切ケアの防止に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	藍	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、利用者や家族への十分な説明はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書や取り組みなどの説明を行ったうえで、理解や納得を得ている。契約改定時や解約時にも同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に要望や意見を聞いている。利用者とのかかわりのなかから要望等を把握し、サービスの改善につなげている。また、玄関に意見箱を設置し、不満や苦情を出しやすくしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションを図っており、必要に応じてミーティングを行い、職員からの意見を聞きとるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の勤務状況を把握している。職員一人ひとりの特性や目標を理解したうえで、各自が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会に積極的に参加し、知識の向上に努めている。また、外部研修に参加した職員が他の職員に周知し、内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や勉強会、相互訪問などの活動はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問をすることで、あらかじめ本人の生活状況を把握し、困っていることや要望を理解している。希望により、体験入居をしていただくことで、入居される方の不安解消につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、不安を抱いている家族も多いため、少しでもその不安を解消できるように、時間をかけて話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を傾聴し、今、何を求めているのかを考えた上で精神的・身体的支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の負担にならない範囲で食事の準備や掃除、洗濯などを職員とともにしていただいている。これまでの長い人生経験に基づいた「生活の知恵」を教えてもらえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の健康状態や思いを家族に伝え、連携を図ることで家族とともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や行きつけの理髪店などとの馴染みの関係を大切にしており、引き続き利用できるように支援している。友人や知人とは、手紙や電話を利用して交流が保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立せずに協力し合い、支えあうことができるような支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、本人や家族との関係を断ち切らず、職員が会い行くこともある。必要に応じて相談や支援に応じられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろのコミュニケーションを通して、希望や意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な方には、言動や表情からその思いを読みとり検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを密にして、生活歴や生活環境等を把握している。その人らしい暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握・理解したうえで、本人の「力」を活かした支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員、関係者が参加し、本人らしい生活についての話し合いを行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量や排泄の状態、日常生活の様子、身体状態を個別に記録し、職員間で情報共有して介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、通院やリハビリの付き添い、往診の支援などの柔軟な対応を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全でその人らしい生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医による医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の協力医療機関に利用者の状態をよく知る看護師がおり、健康管理に関する相談や助言をもらっている。必要に応じて、迅速な受診や往診ができるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者や家族が安心できるように医療機関へ情報提供し連携を図っている。入院後も情報交換を行い、相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から、重度化や終末期の支援について、本人や家族と話し合いを行っている。事業所でできることを話したうえで、職員や医療機関、関係者で方針を共有し、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生に備え、応急手当や初期対応の訓練を実施している。外部研修にも参加し、その内容は職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者とともに防災訓練を行っており、近隣住民にも協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でプライバシーについて確認し合い、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを自らが職員に伝えてもらえるように働きかけ、より多くの場面で自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けるのではなく、利用者一人ひとりにどのように過ごしたいのかをたずね、希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装は、利用者本人が決めている。季節に応じた衣類の調整や整容を、さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に応じて、職員と一緒に食事の準備や配膳などをしていただいている。職員もともに食事をとっており、食卓での会話を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、各職員が把握している。誤嚥しやすい方には、飲み物にとろみをつけるなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が、利用者一人ひとりの排泄パターンを理解している。トイレへの誘導を行い自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や十分な水分摂取、繊維質の多い野菜、乳製品の摂取等を援助し、便秘の予防に取り組んでいる。必要に応じて協力医療機関に相談し、改善に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、人員体制の都合で日中の入浴に限られている。本人の身体の状態や要望に応じて入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠がとれるように、日中に適度な活動ができるよう支援している。利用者一人ひとりの体調に応じて、ベッドやソファで休んでもらうなどの対応もしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬剤の目的や副作用、用法などの書面をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。誤薬防止のため、服薬時の確認は職員2名で行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を活かして、負担にならない範囲で役割を担い、生きがいを持てるように支援している。また、作品づくりや散歩などで気分転換を図っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や散髪、買い物などに出かけられるよう支援している。本人や家族の希望を聞き、季節を感じる場所への外出にも取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			藍 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、事業所で預かっているが、希望や力に応じて少額の金銭を保持してもらい、使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日ごろから、手紙や電話を利用してもらい、家族や知人との関係が途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の明るさや音、温度、湿度に配慮しながら調整している。季節に応じた手作りの作品や花を飾り、季節を感じてもらうことができるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ、小テーブル、いすなどを配置し、気の合う人とともに過ごしたり、一人で思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使い慣れている家具や、思い入れのある物品を持ち込んでもらい、居心地よく生活できるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」に合わせた援助方法を話し合っている。転倒などの事故につながる要因がないかを常に確認し、なるべく自立した生活が送れるよう工夫している。		